

哺乳類



アブラコウモリ

■生物分類：コウモリ目ヒナコウモリ科
アブラコウモリ属

- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：－
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2020年4月15日

市街地を中心とした平野部に分布し、水面や畑といった開けた場所で飛翔しながら虫などを食べます。冬は屋根裏や建物の隙間などで冬眠します。



ハクビシン

■生物分類：ネコ目ジャコウネコ科ハクビシン属

- 由来：外来種
(総合対策外来種)
- 重要種の指定状況：－
- 撮影者：茗荷谷界限
- 撮影場所：自宅
- 撮影日：2019年1月26日

鼻の上に白色の芯のような模様があることから白鼻芯といいます。木登りが得意で、果実を好んで食べます。夜行性で、塀や電線の上を歩いているのを見かけることがあります。

鳥類

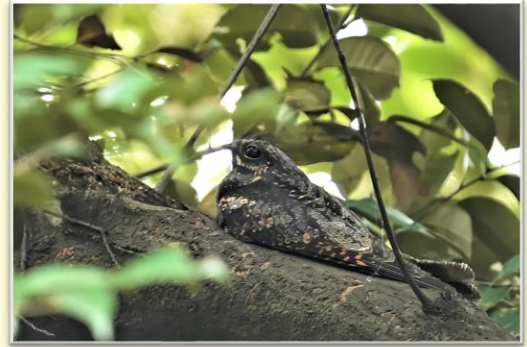


カイツブリ

■生物分類：カイツブリ目カイツブリ科
カイツブリ属

- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：NT*1
- 撮影者：ちゃちゃ
- 撮影場所：小石川後楽園
- 撮影日：2021年6月8日

河川や池沼で浮かんでいる小さな鳥です。水中に潜って魚やエビなどを食べます。区内の大きな庭園の池では繁殖していると思われます。



ヨタカ

■生物分類：ヨタカ目ヨタカ科
ヨタカ属

- 由来：在来種（旅鳥）
- 重要種の指定状況：EX*1 NT*2
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2020年9月13日

日本には夏鳥として開けた山地に飛来します。夜行性で、主に昆虫類を食べます。日中は木や地面の上でジッとしていますが、見つけるのは至難です。秋に渡りをする途中で、区内で羽を休めきた個体と思われれます。



ツミ

■生物分類：タカ目ハイタカ科ハイタカ属

- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：EN*1
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2021年4月13日

小型のタカで、ハトくらいの大ささかありません。主に小型の鳥類を食べます。本来は山林に棲む鳥ですが、都市部の緑にも適応してきているようです。ほぼ一年中見られますが、渡りをする個体もいます。



チョウゲンボウ

■生物分類：ハヤブサ目ハヤブサ科ハヤブサ属

- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：EN*1
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2021年4月18日

ハヤブサの仲間はタカの仲間のように見えますが、どちらかというといんこに近い種です。大きさはハトと同じくらいです。餌を探る時はホバリング（滞空）してから獲物に襲い掛かることもあります。



ハシボソガラス

- 生物分類：スズメ目カラス科カラス属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：－
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2021年4月20日

くちばしが細いカラスです。「カーカー」と濁った声で鳴きます。主に河川敷や農耕地など開けた場所に生息していますが、都市部でもたまに見られることがあります。

- 生物分類：スズメ目カラス科カラス属
- 由来：在来種
- 重要種等の指定状況：－
- 撮影者：かっちゃん
- 撮影場所：自宅の庭
- 撮影日：2021年4月4日



ハシブトガラス

太いくちばしと大きなおでこが特徴のカラスです。「カーカー」と澄んだ声で鳴きます。都市部で見られるカラスの多くは本種です。



エゾムシクイ

- 生物分類：スズメ目ゾムシクイ科ゾムシクイ属
- 由来：在来種（旅鳥）
- 重要種の指定状況：－
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2021年8月27日

日本には夏に針葉樹の多い山林に飛来して繁殖します。北海道・東北によく見られることから「蝦夷」、主に昆虫類を餌とすることから「虫喰」という名前が付いています。秋に渡りをする途中で、区内で羽を休めに来た個体と思われま



メジロ

- 生物分類：スズメ目メジロ科メジロ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：－
- 撮影者：ちゃちゃ
- 撮影場所：清和公園
- 撮影日：2021年2月25日

目の周りが白いでメジロといいますが。花の蜜が好物で、春はウメやサクラの花がある所でよく見られます。「チーヨ、チーヨ」と鳴く声特徴的で、江戸時代頃には鳴き声を競わせる風習がありました。



ムクドリ

- 生物分類：スズメ目ムクドリ科ムクドリ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：－
- 撮影者：ちゃちゃ
- 撮影場所：小石川後樂園
- 撮影日：2021年6月8日

都市部でよく見られる鳥のひとつです。群れていることが多く、夕方～夜に集団でねぐらを作って騒音や糞が問題になることがあります。写真の個体は幼鳥で、全体的に色が薄いです。

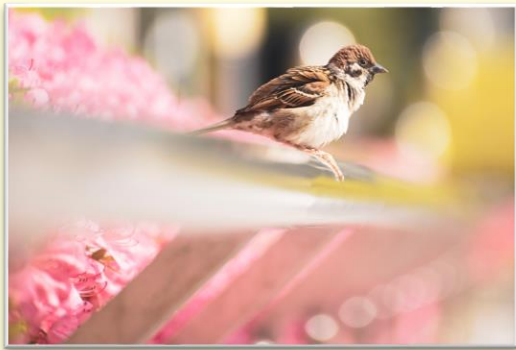


コサメビタキ

- 生物分類：スズメ目ヒタキ科サメビタキ属
- 由来：在来種（旅鳥）
- 重要種の指定状況：EX*1
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2021年9月8日

羽色が鰯の肌の色に似た灰褐色が特徴のコサメビタキの仲間、目の縁取りが白くはっきりしており比較的小型であるのが本種の特徴です。秋に渡りをする途中で、区内で羽を休めに来た個体と思われま

鳥類



スズメ

- 生物分類：スズメ目スズメ科スズメ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：－
- 撮影者：ちゃちゃ
- 撮影場所：東京ドーム
- 撮影日：2021年5月15日

黒くて丸いほっぺたがトレードマークのお馴染みの鳥です。近年、都市部では数が減少しており、巣となる小さな隙間のある場所やヒナのエサとなる虫が減っているためと考えられています。



サンコウチョウ

- 生物分類：スズメ目カササギヒタキ科サンコウチョウ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：EX*1
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2021年9月7日

日本には夏に山林に飛来して繁殖します。さえずりが「月・日・星（ツキ・ヒ・ホシ）、ホイホイホイ」と聞えることから、三光鳥と呼ばれています。今年生まれた若鳥が秋に渡りをする途中で、区内で羽を休めにきたと思われる。

爬虫類



アオダイショウ

- 生物分類：有鱗目ナミヘビ科ナメラ属
- 由来：在来種
- 重要種等の指定状況：NT*2
- 撮影場所：根津
- 撮影日：2021年7月6日

樹上性が強いヘビで、森林周辺のほか、田んぼや小川でも見られます。写真は幼蛇で、梯子状に褐色の斑紋が入るのが特徴です。幼蛇はマムシと間違われることがありますが無毒です。

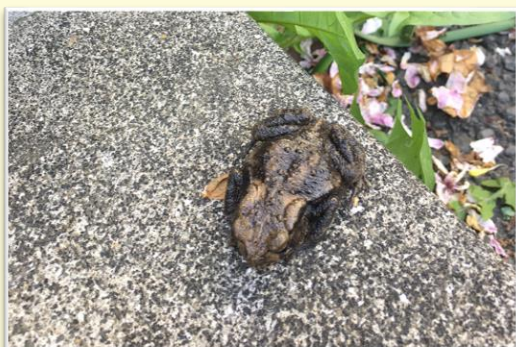
- 生物分類：有鱗目カナヘビ科カナヘビ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：－
- 撮影者：さえちゃん
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2021年9月23日

草地や民家周辺などの開けた所に生息し、主に昆虫類を食べます。体温調節のために日光浴している姿を見かけることがあります。冬季は休眠します。



ニホンカナヘビ

両生類



アズマヒキガエルまたはニホンヒキガエル

- 生物分類：無尾目ヒキガエル科ヒキガエル属
- 由来：不明
- 重要種の指定状況：アズマヒキガエル：VU*1
ニホンヒキガエル：－
- 撮影者：かっちゃん
- 撮影場所：自宅玄関
- 撮影日：2021年4月3日

ヒキガエルの仲間は基本的には林に棲み、春に池や田んぼで産卵します。東京都には元来はアズマヒキガエルが棲んでいましたが、近年、西日本から持ち込まれたニホンヒキガエルとの交雑が懸念されています。今回の写真では種の特定はできませんが、大きさに生まれて1年目くらいと思われます。



アズマヒキガエルまたはニホンヒキガエル

- 生物分類：無尾目ヒキガエル科ヒキガエル属
- 由来：不明
- 重要種の指定状況：アズマヒキガエル：VU*1
ニホンヒキガエル：－
- 撮影者：SUMIRE
- 撮影場所：自宅の植込
- 撮影日：2021年8月7日

鼓膜が大きく、目からの距離も短いことから、在来のアズマヒキガエルである可能性が高いですが、西日本から持ち込まれたニホンヒキガエルとの交雑である可能性も否認できません。ヒキガエルの色には個体差があります。



ギンヤンマ (左:メス 右:オス)

- 生物分類：トンボ目ヤンマ科ギンヤンマ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：－
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2020年7月30日 (左)
2020年7月21日 (右)

頭部と胸部が黄緑色に輝いて見えるトンボです。オスは腹部の付け根が青白い銀色をしています。写真の左がオス、右がメスです。平地から低山地の池沼、水田などに広く分布し、都市部の公園や学校のプールなどでも見られます。



シオカラトンボ

- 生物分類：トンボ目トンボ科シオカラトンボ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：－
- 撮影者：ゼファーななはん
- 撮影場所：大塚公園
- 撮影日：2020年8月3日

平地の湿地や池沼でよく見られるトンボです。写真の個体はオスで、成熟すると体表が灰白色の粉で覆われ、塩が噴いたように見えます。メスは黄色っぽい地味な色をしています。



ムラサキシジミ

- 生物分類：チョウ目シジミチョウ科ムラサキシジミ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：－
- 撮影者：ゼファーななはん
- 撮影場所：大塚公園
- 撮影日：2020年7月27日

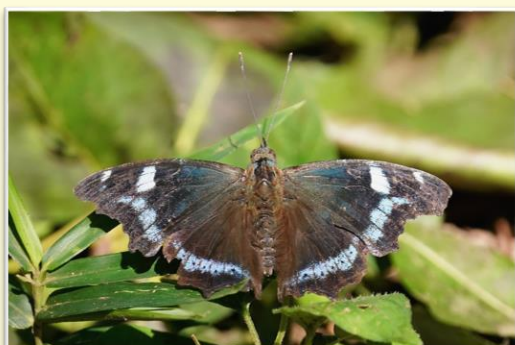
前翅の先が尖っているのが特徴で、翅を閉じている時はくすんだ灰褐色をした面しか見えませんが、翅を開くと紫色をした面が見えます。



ゴマダラチョウ本土亜種

- 生物分類：チョウ目タテハチョウ科アカボシゴマダラ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：－
- 撮影者：ゼファーななはん
- 撮影場所：大塚公園
- 撮影日：2020年8月28日

翅の黒色と白色の胡麻みだいな斑模様の特徴です。成虫は主に樹液や腐果の汁を吸います。幼虫はエノキの樹の葉を食べます。



ルリタテハ

- 生物分類：チョウ目タテハチョウ科ルリタテハ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：－
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2021年9月10日

翅を開いたときに見える鮮やかな瑠璃色の帯模様がきれいなチョウです。平地の森林に生息し、翅を閉じると樹皮に似た見た目になります。成虫は主に樹液を吸います。



クロコノマチョウ

- 生物分類：チョウ目タテハチョウ科コノマチョウ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：－
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2021年9月8日

薄暗い樹林の林床でよく見られます。成虫は主に夕方に活動し、樹液や腐果の汁を吸います。幼虫はススキ、ジュズダマ、チヂミササ、アブラススキなどのイネ科草本の葉を食べます。



アサギマダラ

- 生物分類：チョウ目タテハチョウ科アサギマダラ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：－
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2021年9月7日

薄い青緑色を意味する浅窓色の斑模様特徴のきれいなチョウです。初夏に北上し、秋に南下する旅をするチョウで、その移動距離は1,000km以上で海を越えています。幼虫はガガイモ科の植物の葉を食えて育ちます。区内では、旅の途中と思われる個体がたまに見られます。



アオスジアゲハ

- 生物分類：チョウ目アゲハ科アオスジアゲハ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：－
- 撮影者：ちやちゃ
- 撮影場所：小石川後楽園
- 撮影日：2021年6月8日

黒地に明るい水色の帯が入ったきれいな模様のチョウです。市街地では庭や公園の花壇によく飛来します。クスノキ科の樹木に産卵します。



ナミアゲハ

- 生物分類：チョウ目アゲハチョウ科アゲハチョウ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：－
- 撮影者：かっちゃん
- 撮影場所：自宅
- 撮影日：2020年4月

最もなじみが深いチョウの1つです。ナミアゲハは色を学習し、好きな花の色を見つけて訪花すると言われています。スリッパのピンク色に引かれてやってきたのかもしれない。

- 生物分類：チョウ目カレハガ科 Dendrolimus 属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：－
- 撮影者：ゼファーななはん
- 撮影場所：大塚公園
- 撮影日：2020年8月12日



マツカレハ

幼虫はマツの葉を食べ「マツケムシ」と呼ばれ、時々大量発生してマツ林を食害する森林害虫です。六義園や小石川後楽園で毎年行われる「こも巻き」は、マツの木についている害虫(マツカレハ)を除去するため、江戸時代から大名庭園で行われてきたとされる伝統的な駆除法です。



ウンモンズメ

- 生物分類：チョウ目スズメガ科 Callambulyx 属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：－
- 撮影者：ゼファーななはん
- 撮影場所：大塚公園
- 撮影日：2020年5月1日

雲紋雀(ウンモンズメ)と書き、翅の模様が美しいスズメガです。幼虫はケヤキなどの葉を食べるので、雑木林の周辺で見られます。灯火によく飛来するので、朝方に灯火の近くにいてのを見かけることがあります。



ホシホウジャク

- 生物分類：チョウ目スズメガ科ホウジャク属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：－
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2021年9月5日

滞空(ホバリング)しながら長い口を伸ばして花の蜜を吸います。素早く羽ばたきながら飛ぶので、飛んでいる姿はハチのように見え、蜂雀と書きます。星のように見える後翅と胴の黄色い斑模様が特徴です。

昆虫類

- 生物分類：
チョウ目シャチホコガ科
Phalera 属
- 由来：
在来種
- 重要種の指定状況：
—
- 撮影者：
小豆黒豆
- 撮影場所：
小石川植物園
- 撮影日：
2020年9月13日



ツマキシヤチホコ

翅の先端（襟）が黄白色であることから「ツマキ」、幼虫がシャチホコのように反り返る習性があることから「シャチホコ」と名が付いています。写真は成虫で、樹皮に擬態して鳥などの天敵に見つかりにくくなっています。

- 生物分類：
ハエ目ガガンボ科
ホソガガンボ属
- 由来：
不明
- 重要種の指定状況：
—
- 撮影者：
かっちゃん
- 撮影場所：
自宅
- 撮影日：
2021年5月24日



ホソガガンボ属の一種

翅や胸部の模様の特徴からホソガガンボ属の一種と思われる。種を判別するには交尾器を見る必要があります。幼虫は植物の根を食べて育ちます。



トゲナナフシ

- 生物分類：ナナフシ目ナナフシ科 Neohirasea 属
- 由来：在来種
- 重要種等の指定状況：—
- 撮影場所：小石川植物園周辺
- 撮影日：2021年9月10日

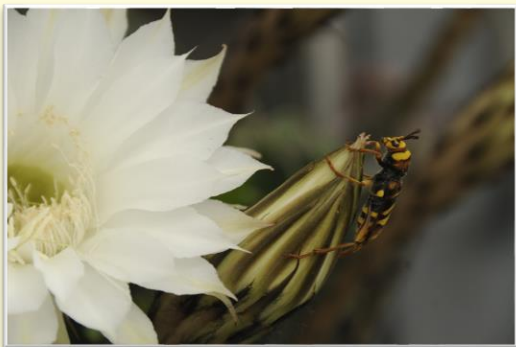
木の枝に擬態した姿をした草食の昆虫です。夜行性で、昼間は石垣の隙間や植物の根元などに潜っており、日没後に活動します。

- 生物分類：
コウチュウ目タマムシ科
ウバタマムシ属
- 由来：
在来種
- 重要種の指定状況：
VU*1
- 撮影者：
Sillago
- 撮影場所：
小石川植物園
- 撮影日：
2021年8月28日



ウバタマムシ

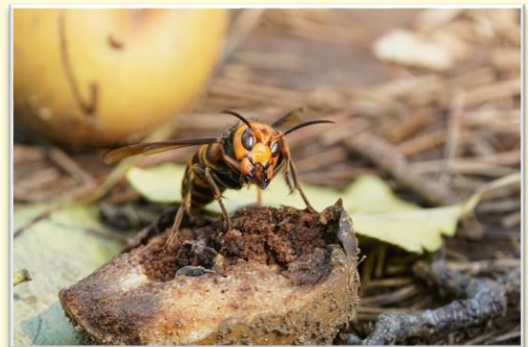
線状にゴツゴツした背中が特徴のタマムシの仲間です。幼虫はマツの弱った木や枯れ木の材を食べて育ちます。成虫はマツの葉などを食べます。



トラフカミキリ

- 生物分類：コウチュウ目カミキリムシ科
トラカミキリ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：NT*1
- 撮影者：小豆黒豆
- 撮影場所：自宅ベランダ
- 撮影日：2021年6月12日

トラ模様のカミキリムシで、毒を持つスズメバチに擬態することで鳥などの天敵に襲われにくいようにしていると考えられています。



オオスズメバチ

- 生物分類：ハチ目スズメバチ科
スズメバチ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：—
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2021年9月10日

雑木林の樹液や果実によく集まるほか、他の昆虫を襲って幼虫の餌にします。メスには強力な毒針があり、性格も攻撃性が強いので、とても危険なハチです。

昆虫類

- 生物分類：
ハチ目マルハナバチ科
マルハナバチ属
- 由来：
在来種
- 重要種の指定状況：
—
- 撮影者：
かっちゃん
- 撮影場所：
自宅
- 撮影日：
2021年6月15日



コマルハナバチ

都市部でもよく見られるマルハナバチの一種です。花粉と花蜜を餌としていますが、体を覆う毛に付いた花粉が遠くに運ばれることで、植物にとっても有益な送粉者でもあります。写真の個体はオスで全身が黄色ですが、メスは黒っぽい色をしています。

クモ類



ササグモ

- 生物分類：クモ目ササグモ科ササグモ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：—
- 撮影者：かっちゃん
- 撮影場所：自宅の庭
- 撮影日：2019年5月22日

ササの葉にいたことから和名が付けられましたが、様々な植物の上で見つかります。網を張らず、歩き回って餌を探します。

種子植物類

- 生物分類：
マツ目マツ科マツ属
- 由来：
植栽種
- 重要種の指定状況：
—
- 撮影者：
かっちゃん
- 撮影場所：
護国寺
- 撮影日：
2020年4月6日



アカマツ

幹が黒っぽく見えるクロマツに対し、幹が赤茶色に見えるのが特徴です。日当たりのよい場所を好み、貧栄養な土壌でもよく育ちます。



スイレン

- 生物分類：スイレン目スイレン科
スイレン属
- 由来：外来種
(総合対策外来種)
- 重要種の指定状況：—
- 撮影者：おか
- 撮影場所：小石川後楽園
- 撮影日：2021年6月5日

池沼に生える多年草で、水底に根をはり、水面に浮く円形の葉が特徴的な浮葉植物です。多くの品種があり、観賞用に庭園の池などに植えられています。花は日中開き、夜になると閉じます。

- 生物分類：
コショウ目ドクダミ科
ドクダミ属
- 由来：
在来種
- 重要種の指定状況：
—
- 撮影者：
かっちゃん
- 撮影場所：
自宅の庭
- 撮影日：
2019年5月22日



ドクダミ

湿った所に生え、しばしば群生します。独特の匂いがありますが、毒はなく、生薬としてよく利用されています。

- 生物分類：
ユリ目ユリ科 Scilla 属
- 由来：
外来種
- 重要種の指定状況：
—
- 撮影者：
かっちゃん
- 撮影場所：
自宅の庭
- 撮影日：
2021年4月25日



ツリガネスイセン

スペイン・イベリア半島原産の多年草です。春に咲く釣鐘状の花が特徴的で、園芸植物として鑑賞用によく植えられています。

種子植物類

- 生物分類：
クサスギカズラ目ラン科
ネジバナ属
- 由来：
在来種
- 重要種の指定状況：
—
- 撮影者：
おか
- 撮影場所：
小石川後樂園
- 撮影日：
2021年6月5日



ネジバナ

桃色の小さい花が螺旋状に並んで咲くことからネジバナといわれます。きれいな花であるものの、雑草並の繁殖力があり、公園の芝生などで比較的良好に見られます。



ハナショウブ

- 生物分類：クサスギカズラ目
アヤメ科アヤメ属
- 由来：植栽種
- 重要種の指定状況：—
- 撮影者：おか
- 撮影場所：小石川後樂園
- 撮影日：2021年6月5日

小石川後樂園の庭園にはたくさんの花菖蒲が植えられており、5月末から6月中旬頃に見ごろを迎えます。花菖蒲は江戸時代の頃から栽培が進められた江戸の花文化の一つとなっています。

- 生物分類：
クサスギカズラ目アヤメ科
ニワゼキショウ属
- 由来：
外来種
- 重要種の指定状況：
—
- 撮影者：
おか
- 撮影場所：
小石川後樂園
- 撮影日：
2021年6月5日



ニワゼキショウ

北アメリカ原産の多年草で、日当たりのよい芝生や草地などで見られ、しばしば群生します。

- 生物分類：
クサスギカズラ目
クサスギカズラ科
スズラン属
- 由来：
植栽種
- 重要種の指定状況：
—
- 撮影者：
かっちゃん
- 撮影場所：
自宅の庭
- 撮影日：
2020年5月2日



スズラン または
ドイツスズラン

日本に自生のスズランは高原の草地などに生え、観賞用に栽培されているのはほとんどドイツスズランです。花の中を覗いて赤い色が見えたらドイツスズランであるほか、花茎の出方などにも違いがあります。有毒植物です。

- 生物分類：
ツククサ目ツククサ科
ムラサキツククサ属
- 由来：
植栽種
- 重要種の指定状況：
—
- 撮影者：
かっちゃん
- 撮影場所：
自宅の庭
- 撮影日：
2019年5月22日



オオムラサキツククサ

萼片（花の外縁にある葉のようなもの）に毛が生えていることからオオムラサキツククサと判断できます。北米原産の園芸品種です。萼片に毛がないものは別種ムラサキツククサとなります。



チダケサシ属の一種

- 生物分類：ユキノシタ目ユキノシタ科
チダケサシ属
- 由来：不明
- 重要種の指定状況：—
- 撮影者：おか
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2021年6月1日

小さな花の集まりの付き方や全体の形の特徴から、ユキノシタ科のチダケサシ属の一種と思われます。種を判別するためには、小さな花の形状や葉の形状を詳しく確認する必要があります。

種子植物類

- 生物分類：
ユキノシタ目ユキノシタ科
ユキノシタ属
- 由来：
在来種
- 重要種の指定状況：
—
- 撮影者：
かっちゃん
- 撮影場所：
自宅の庭
- 撮影日：
2021年5月9日



ユキノシタ

湿った沢沿いに生える多年草ですが、観賞用に植えられているものもあります。薬草や山菜として利用されることもあります。5~7月頃には白い可憐な花を咲かせます。

- 生物分類：
バラ目バラ科サクラ属
- 由来：
植栽種
- 重要種の指定状況：
—
- 撮影者：
かっちゃん
- 撮影場所：
護国寺
- 撮影日：
2019年4月4日



シダレザクラ類

シダレザクラは特定の種ではなく、枝がやわらかく垂れるサクラの総称で、いくつもの品種があります。イトザクラ、ペニシダレなどの品種が広く植栽されています。

- 生物分類：
バラ目バラ科サクラ属
- 由来：
植栽種
- 重要種の指定状況：
—
- 撮影者：
かっちゃん
- 撮影場所：
護国寺
- 撮影日：
2020年4月6日



ソメイヨシノ
(の可能性が高い)

ソメイヨシノは、桜の代表的な品種です。色々な所に広く植栽されていますが、クローン(挿し木や接ぎ木など)で増やされたため全ての個体が同じ遺伝子を持ちます。

- 生物分類：
バラ目バラ科ビワ属
- 由来：
植栽種
- 重要種の指定状況：
—
- 撮影者：
かっちゃん
- 撮影場所：
自宅の庭
- 撮影日：
2019年6月9日



ビワ

葉の形や実の形が楽器の琵琶に似ていることが名前の由来とされています。梅雨の頃にオレンジ色の実がなるため、初夏の季語になっています。冬には香りの強い白い花をつけるため、ビワの花は初冬の季語にもなっています。



ムラサキカタバミ

- 生物分類：カタバミ目カタバミ科カタバミ属
- 由来：外来種
- 重要種の指定状況：—
- 撮影者：おか
- 撮影場所：小石川後樂園
- 撮影日：2021年6月5日

江戸時代末期に観賞用として導入された南アメリカ原産の外来種です。栄養繁殖(種子によらないクローン繁殖)が旺盛で、駆除が困難な雑草です。

- 生物分類：
キントラノオ目スミレ科
スミレ属
- 由来：
外来種
- 重要種の指定状況：
—
- 撮影者：
かっちゃん
- 撮影場所：
自宅の庭
- 撮影日：
2021年4月9日



アメリカスミレサイシン

北アメリカ原産のスミレ類で、鑑賞用に多く栽培されています。花の色の違う品種がいろいろあります。

種子植物類

- 生物分類：
キントラノオ目
オトギリソウ科
オトギリソウ属
- 由来：
外来種
- 重要種の指定状況：
—
- 撮影者：
おか
- 撮影場所：
小石川後樂園
- 撮影日：
2021年6月5日



キンシバイ

中国原産の低木で、江戸時代の頃から観賞用として親しまれてきました。金糸梅と書き、梅のような花に金色の糸のような雄しべが付いているのが特徴です。

- 生物分類：
アオイ目アオイ科
フヨウ属
- 由来：
植栽種
- 重要種の指定状況：
—
- 撮影者：
かっちゃん
- 撮影場所：
自宅庭
- 撮影日：
2020年8月16日



フヨウ

花より大きな、浅く3~7裂した五角形の明るい緑色の葉をつけます。フヨウの中でも、花の色が白から紅色に次第に変化する園芸品種をスイフヨウといいます。日本の南西部では自生しているものもあります。

- 生物分類：
アオイ目アオイ科
フヨウ属
- 由来：
植栽種
- 重要種の指定状況：
—
- 撮影者：
かっちゃん
- 撮影場所：
自宅前
- 撮影日：
2019年7月21日



ムクゲ

花はフヨウに似ていますが、花よりやや小さな、菱形~浅く3裂した濃い緑色の葉をつけます。中国原産で、たくさんの園芸品種があります。



ボダイジュ

- 生物分類：アオイ目アオイ科シナノキ属
- 由来：植栽種
- 重要種の指定状況：—
- 撮影者：おか
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2021年6月1日

中国原産の落葉高木で、寺院の境内などによく植えられています。釈迦が悟りを開いたとされる所がインドボダイジュの下であり、このインドボダイジュに葉が似ているため菩提樹として代用されています。

- 生物分類：
アブラナ目アブラナ科
アブラナ属
- 由来：
植栽種
- 重要種の指定状況：
—
- 撮影者：
かっちゃん
- 撮影場所：
護国寺
- 撮影日：
2020年4月6日



セイヨウアブラナ
(の可能性が高い)

いわゆる「なのはな」にはいくつもの種類があります。セイヨウアブラナは葉の付け根が茎を包んでいることが特徴です。よく似たセイヨウカラシナは葉が茎を包みません。



ノリウツギ

- 生物分類：ミズキ目アジサイ科ノリウツギ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：—
- 撮影者：おか
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2021年6月1日

山地の林縁や草原の低木林など日当たりのよいところに生える落葉低木です。夏頃に咲くアジサイに似た白い花が特徴的で、庭木としても植えられることがあります。

種子植物類

■生物分類：
ミズキ目アジサイ科
アジサイ属

■由来：
植栽種

■重要種の指定状況：
—

■撮影者：
おか

■撮影場所：
春日二丁目バス停近く

■撮影日：
2021年6月13日



アジサイ

日本原産のガクアジサイから改良した園芸品種です。アジサイの花の色は土壌の pH（酸性度）によって変わり、一般に酸性ならば青色に、アルカリ性ならば赤色になると言われています。



カシワバアジサイ

■生物分類：ミズキ目アジサイ科アジサイ属

■由来：植栽種

■重要種の指定状況：—

■撮影者：かっちゃん

■撮影場所：自宅の庭

■撮影日：2019年6月16日

北米原産のアジサイで、葉の形がカシワに似ているが名前の由来です。育つ環境は日本原産のアジサイとほぼ同じですが、花は鞠状ではなく穂のようにつくのも特徴です。



ツツジ類（ヒラドツツジほか）

■生物分類：ツツジ目ツツジ科ツツジ属

■由来：植栽種

■重要種の指定状況：—

■撮影者：かっちゃん

■撮影場所：護国寺

■撮影日：2020年4月29日

ヒラドツツジ（古くから平戸で栽培されてきたとされるツツジで、代表的な園芸品種はオオムラサキ）など、様々な種類のツツジが植栽されているようです。



ハナイカダ

■生物分類：モチノキ目ハナイカダ科

ハナイカダ属

■由来：在来種

■重要種の指定状況：—

■撮影者：Sillago

■撮影場所：小石川植物園

■撮影日：2021年4月28日

葉の上に花が咲くので花筏と書きます。落葉性の低木で、オスの木とメスの木があります。写真はメスの木に咲いた雌花で、オスの木には1枚の葉に複数の雄花が咲いてこんもりした形に見えます。

■生物分類：
キキョウ目キキョウ科
ホタルブクロ属

■由来：
在来種

■重要種の指定状況：
—

■撮影者：
おか

■撮影場所：
春日

■撮影日：
2021年5月16日



ホタルブクロ

山野の開けたやや乾燥した草地や道ばたなどによく見られる多年草です。初夏に大きな釣り鐘状の花を咲かせ、この釣り鐘状の花の中にホタルが入ることが連想されることから蛍袋と呼ばれるようになったと考えられています。

■生物分類：
キク目キク科シオン属

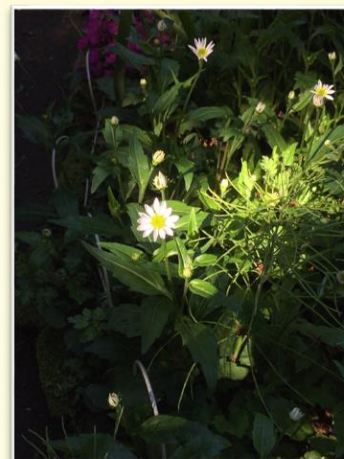
■由来：
植栽種

■重要種の指定状況：
—

■撮影者：
かっちゃん

■撮影場所：
自宅の庭

■撮影日：
2017年4月23日



ミヤマヨメナ
(園芸名ミヤコワスレの可能性もある)

花や葉の形状、開花時期からシオン属のミヤマヨメナであると考えられます。ミヤマヨメナの園芸品種は、古くから『ミヤコワスレ』と呼ばれています。

種子植物類

- 生物分類：
キク目キク科アズマギク属
- 由来：
外来種
- 重要種の指定状況：
—
- 撮影者：
かっちゃん
- 撮影場所：
旧兵庫県社宅の庭
- 撮影日：
2019年5月5日



ヒメジョオン または
ハルジオン

ヒメジョオンとハルジオンはよく似ています。葉の付け根が茎を包んでおらず、つぼみが上を向いているのがヒメジョオン、葉の付け根が茎を包み、つぼみが下を向いているのがハルジオンです。

- 生物分類：
キク目キク科フキ属
- 由来：
在来種
- 重要種の指定状況：
—
- 撮影者：
かっちゃん
- 撮影場所：
自宅の庭
- 撮影日：
2021年4月9日



フキ

山野に生える多年草です。やや湿った所で育ちます。山菜として知られるフキノトウは本種の花芽で、早春に葉よりも先に土中から出てきます。初夏の頃の若い茎も食用にされます。

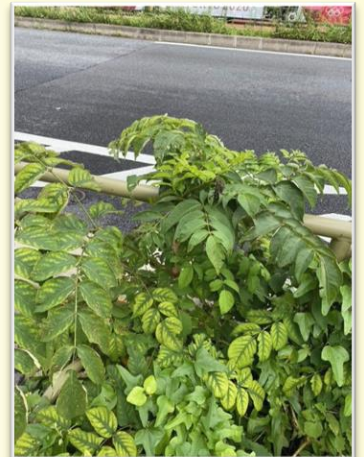
- 生物分類：
キク目キク科ノゲシ属
- 由来：
在来種
- 重要種の指定状況：
—
- 撮影者：
かっちゃん
- 撮影場所：
旧兵庫県社宅の庭
- 撮影日：
2019年5月5日



ノゲシ

葉の付け根が三角形に飛び出すのが特徴です。よく似たオノゲシは葉の付け根が丸くめくれています。春から秋に小さめの黄色のタンポポのような花を咲かせます。

- 生物分類：
セリ目ウコギ科
タラノキ属
- 由来：
在来種
- 重要種の指定状況：
—
- 撮影者：
おかだ
- 撮影場所：
春日通りと白山通りの交差点付近
- 撮影日：
2021年8月23日

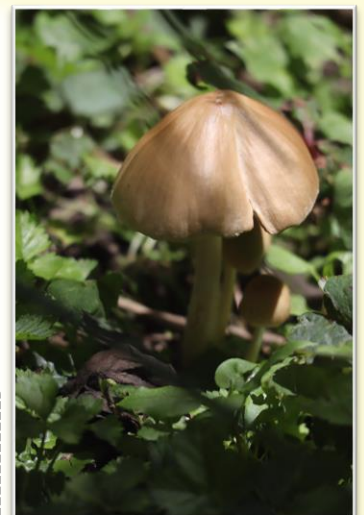


タラノキ

道路脇など日当たりの良い山野に生える落葉低木で、コンクリートの隙間から生えてくることもあります。新芽は「タラの芽」と呼ばれ、山菜として人気がありテンプラ等に調理されます。芽を採り過ぎると枯れてしまうので、最初に先端に生えてくる一番芽だけを採るのが山菜採りのマナーです。

菌糸類

- 生物分類：
ハラタケ目ナヨタケ科
ナヨタケ属
- 由来：
在来種
- 重要種の指定状況：
—
- 撮影者：
かっちゃん
- 撮影場所：
自宅の庭
- 撮影日：
2019年6月16日



イタチタケの一種

まばらに土の上に群生していることと、傘の大きさ・色、傘の表面が平滑で縁に綿くす状の白い付着物がみられることから、イタチタケの仲間と判断しました。傘の裏側がわかると、種の特がしやすくなります。イタチタケの仲間は、広葉樹の枯れ木や切り株、その周辺の地面に生え、有機物を栄養源にする腐生菌です。



セリ科の一種

- 生物分類：セリ目セリ科
- 由来：不明
- 重要種の指定状況：—
- 撮影者：おか
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2021年6月1日

セリ科の植物の多くは、写真のように、小さな花が傘状に集まって付いたものの集合である「複散形花序」と呼ばれる花を咲かせるのが特徴です。種まで判別するためには、小さな花の形状や葉の形状などを詳しく確認する必要があります。

<重要種とは>

固有性、希少性、立地依存性、脆弱性や学術性などの観点から重要と考えられる生物種を“重要種”と呼びます。

本アルバムでは、下記に該当する生物種を“重要種”として選定しています。

<重要種のカテゴリー>

レッドリスト (東京都区部)※1	レッドリスト (環境省)※2	基本概念
絶滅 (EX)	絶滅 (EX)	既に絶滅したと考えられる種
野生絶滅 (EW)	野生絶滅 (EW)	飼育・栽培下あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅の危機に瀕している種
絶滅危惧ⅠA類 (CR)	絶滅危惧ⅠA類 (CR)	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
絶滅危惧ⅠB類 (EN)	絶滅危惧ⅠB類 (EN)	ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅の危険が増大している種
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧Ⅰ類」に移行する可能性のある種
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	評価するだけの情報が不足している種
—	絶滅のおそれのある地域 個体群 (LP)	地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの
留意種 (*)	—	現時点では準絶滅危惧のレベルではないが、相対的に数が少ない種であり、容易に個体数が減少することがあり得るため、留意が必要と考えられるもの

※1:「東京都レッドリスト(本土部)2020年版」(東京都、令和3年3月)の区部に該当する掲載種

※2:「環境省レッドリスト2020」(環境省、令和2年3月)

<外来種とは>

もともとその地域にいなかったのに、人間の活動によって他の地域から入ってきた生物種を“外来種”と呼びます。

本アルバムでは、下記に該当する生物種を“外来種”として選定しています。

- ①「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」(平成16年法律第78号)に基づき指定された特定外来生物、未判定外来生物
- ②「我が国の生態系に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(生態系被害防止外来種リスト)」に掲載の生物種
- ③国立研究開発法人国立環境研究所「侵入生物データベース」に掲載の生物種

本アルバムでは、上記の“外来種”に該当しない種の由来については下記の定義をしています。

- ・園芸品種：人為的に改良された品種として植えられたもの
- ・植栽種：人為的に植えられたもので、園芸品種として判別できなかったもの
- ・逸出種：人為的に植えられたり飼育されたりしたものから逸出したと考えられるもの
- ・不明：種が特定できないものや、種の由来に諸説あるものなど

文京区資源環境部環境政策課

〒112-8555 文京区春日一丁目16番21号

電話 03(5803)1276

文の京生きもの写真館 ホームページ

<https://www.city.bunkyo.lg.jp/bosai/kankyo/jouhou/ikimonosyasinkan.html>